

みちのく

ココロとカラダの癒し旅

青森県黒石市 青荷温泉

道のしるほに掲げられた
手書き看板に心和む

深い谷底に青荷温泉はある

(訳)あともうわずか

温泉ファンに人気のランプの宿

弘前市と十和田湖を結ぶ国道102号、そのほぼ中間に、浅瀬石川ダム建設によって生まれたダム湖「虹の湖」がある。そのほとりから横道にそして約6.5kmの山道を進んだ先に、青荷温泉はある。全国的によく知られた「ランプの宿」だ。

途中の峠付近から見下ろすと、この宿がどれだけ山深いところにあるかがよく分かる。山深いと言っても、電気を引けないわけではない。それでもあえてランプにこだわるのは、遠来のお客をもてなすための、この宿一流のサービス精神であり「美学」なのだ。多い日には一日に200個ものランプを扱う。その手間を惜しまないのは、津軽人ならではの「じよっぱり(頑固者)精神の表れだろう。



青荷川をつり橋で渡り対岸に
離れや露天風呂がある



客室にともされたランプ



旅館の造りは質素だが
清潔で快適



青荷温泉本館

歴史だけで言うなら、青荷温泉はそう古くはない。黒石生まれの丹羽洋岳という人物によつて昭和4(1929)年に開湯された。洋岳は中央歌壇とも親交のあつた津軽の歌人で、青荷の開湯にあつては、温泉経営自体と同時に、みずからの創作活動の拠点としての位置づけもあつたのだから。そして、今でも青荷にそこはかとなく感じられる風雅のたたずまいは、文人の手で開かれた温泉ならではの名残なのだろうか。



使われるランプは1日200個にもなる。準備も大変

山の中の秘湯は雰囲気雑然としているところも少なくないが、こゝは掃除も行き届いてござつぱりとしていて気持ちがいい。客室にはテレビもなく、温泉敷地内を流れる青荷川のせせらぎが滞在中のBGMだ。チエックインをする



客室はシンプルな造り



部屋においてある案内書きは全編津軽弁!

仙境で楽しむ非日常感覚

青荷温泉の客室数は35。最大収容数は100名。たいへん人気の宿で、夏休みや紅葉シーズンに予約が取りづらいのはもちろん、オフシーズンの平日でもなかなかのにぎわい。夫婦連れ、家族連れ、カップル、グループ、一人旅と、旅のスタイルもさまざまだ。

と、布団は自分で敷いてくださいと案内され、それも気楽だと納得できる。そして、あたりが暗くなる前に、専門のランプ係が客室をはじめ館内や浴室にランプをおいていく。この作業だけでも大掛かりだ。食事は朝夕とも大広間で泊まり客が一堂に会して食べる。ことに夕食は、ランプのほの暗い明かりの下での食事だ。夜は明るい照明の下で過ごすという常識が覆





毎週金曜日は会食場で
津軽三味線の生演奏がある



大広間のランプの下で夕食が始まる



夕食は自然の食材を生かし、素朴ながら一手間
かかったものばかり



名物の露天風呂は普段は混浴



「滝見の湯」からは文字通り滝が
眺められる

風呂は露天風呂も含めて全部で4カ所。露天風呂以外はすべて男女別。湯は無色透明無臭のクセのない単純炭酸泉。2カ所の外湯は近年つくり直したもので、青森ヒバを贅沢ぜいたくに使った木尽くしの湯小屋だ。ちなみに、「滝見の湯」をつくり直した際、かつて同じ場所にあった「龍神の湯」にならない、混浴で申請したが、今は改装を含めて新規の混浴申請は認められないのだそう。今後は、混浴風呂

は減ることはあっても増えることはない。その意味でも青荷の混浴露天風呂は貴重な存在。旅の思い出づくりに混浴に挑戦してみるのも一興かも。

今の時代、ランプの明かりだけで過ごすという体験はめったにできないものではない。それがどういうものか、試してみるだけでも青荷温泉に泊まる価値は大いにあるのではないだろうか。

青荷温泉へは、公共交通機関を利用するのであれば、弘前から弘南鉄道の電車で黒石へ、そこから弘南バスで虹の湖まで行くと温泉の送迎バスが待っている(要予約)。クルマでの移動ならば、弘前や十和田湖、奥入瀬渓流などを巡るドライブプランを練ってみるのも面白いだろう。

(文・写真IIかとうりゅうせいII秋田市)

ひと味違う貴重な思い出づくり

されるちよつと不思議な世界。そして、泊まり合わせた客同士で連帯感のようなものが生まれて、あちこちで初対面の者同士の会話が弾む。

A O N I O N S E N

施設のご案内

- 客室 35室(全和室)
- 宿泊人数 100名様
- 宴会場 大広間(52畳)
- 囲炉裏の間(16畳)
- 健六の湯(男女別)
- 内湯(男女別)
- 滝見の湯(男女別)
- 露天風呂(混浴:レディースタイム有り)

お一人様 1泊2食付き
9,600円より(税・サ込)



青荷温泉

〒036-0402 青森県黒石市大字沖浦
字青荷沢滝ノ上1の7

TEL.0172-54-8588

Fax.0172-54-2655

HPアドレス <http://www.yo.rim.or.jp/aoni>

◆ご予約お問い合わせ時間
AM8:00~PM5:00



露天風呂には屋根がかかり、雨や雪の日も快適。
かたわらに「子宝の湯」と名付けられた樽風呂がある



「健六の湯」。窓外に広がる緑が清々しい



「滝見の湯」の露天風呂は周囲の自然に溶け込んでいる